



2021年7月14日

第4回勇希の会

市大センター病院共催 造血幹細胞移植 患者会 第4号

勇希の会

これから移植をする人や移植後の生活で困っている人の助けになりたい、役に立ちたいという思いから、勇希の会は設立されました。この場が困っていることや不安な気持ちを受け止める場所、話すことで気持ちが楽になれる場所になれば良いと思います。

勇希の会は、**勇**気を持って病気に立ち向かえば、**希**望は叶うという意味が込められています。



第4回勇希の会 -初のオンライン勇希の会-

この会は2019年3月26日に初めて開催され、その後2回開催されましたが、コロナの影響で中止となってしまいました。本来なら対面で行いたところですが、コロナが収束しない状況なので、オンラインで開催することになりました。皆さんにお知らせするのが遅くなり、なかなか人数が集まらなかったのですが、入院患者さんや患者さんのご家族の方、附属病院の方、移植後数年経過している方などが参加してくださいました。

ひとりじゃない

初めてのオンライン開催に、ドキドキと楽しみで迎えた本番でしたが、参加者さんの寛大さにも助けられ滞りなく会が進みました。無菌室に入院している患者さんや会場に来られない方が参加できるのは、オンラインならではのですね。コロナ禍でもできることを考え続けた結果のうれしい1日でした。

前半：参加者の自己紹介

まず自己紹介から始めて、コロナ禍の今だからこそ最近始めたこと、今とても気になっていることなどそれぞれ話してもらいました。きっかけはそれぞれ違いますが、意外にも楽器を始められた方が数名いらっしゃいました。気になっていることとしては、コロナワクチンについて接種済みの方やこれから接種する方もいて、接種した方の中には、倦怠感が強く寝込んだ方もいました。基礎疾患がある人のワクチンについては、自分の主治医に確認しましょうという結論に至りました。



バスの運転手でもある勇希の会代表の橋本さんより、運転前に普段実際行っているリラックス体操を教えていただき、緊張した体をほぐしたあと休憩を挟んで後半へ

後半：体験談

今回これから移植を予定している患者さんのご家族が参加され、家族として支えたいがどのように接したらよいかわからない、家族にされたり言われたりしてうれしかったことは何かという質問がありました。

いろいろ考えてやってくれることありがたいが、普段通りに接してくれたことが嬉しかった、病気から逃げず一緒に闘ってくれたこと、言葉はなくてもそこにいるだけでうれしかった、毎日家族が来てくれて、欲しいものや頼んだものを持ってきてくれたことなど、医療者にはできない家族だからできることを話してくださいました。

入院患者さんにとって家族の存在は大きいです。何度もくじけそうになったけど、何度も立ち上がったのは家族が支えてくれたからと言っていた方もいました。

辛い闘病生活を乗り切るには、退院したら食べたいもの、欲しいもの、やりたいことなど、楽しみ（目標）を設定するのが良いというアドバイスをいただきました。今後も移植患者さん・家族にとって、居心地の良い場所となるような、勇希の会を目指していきます。

次回 第5回 勇希の会

2021年10月6日（水）14：00～15：30 オンライン開催